



藤岡 緑 議員

**問** これからの少子化対策並びに子育て支援についての考えは。

**答** 安心して子育てできる切れない支援、環境づくりのための施策に取り組んできた。

具体的には、町内全校区の放課後児童クラブ施設整備、松山圏域3市3町による婚活支援事業、松前町子育て世代包括支援センター「はぐはぐ」の開設による妊娠前から子育て期にわたる相談・支援の提供、病児保育の実施、中学卒業までの医療費無償化、地域で親子が自由に交流できる子育てサロンやサークル活動の支援など。

また、本町では、正規職員と会計年度任用職員を対象に育児休暇や看護休暇の拡充を行った。

さらに、県の創設した「えひめ人口減少対策総合交付金」の支援メニュー別の事業を活用して新たな取組を研究していきたい。



**問** 人権を尊重する町づくりを推進する松前町のジェンダー平等や多様性についての考えは。

**答** 平成14年3月に「松前町思いやりとぬくもりのある人権尊重の町づくり条例」を制定し、ジェンダー平等やLGBTQなども含めた人権の啓発や教育に取り組んでいるところである。

例えば、行政窓口への提出書類の対応について、性的マイノリティの人々の中には自分の性別に違和感を持ち、各種申請書等に性別記載欄があった場合、男女のみの選択肢から選ぶことに苦痛を感じる方もいる。

本町では当事者に寄り添った取組として、やむを得ない場合を除き、性別記載欄を削除することを検討している。



影岡 俊範 議員

**問** 町民目線でのDX「書かない窓口」への取組は。

「窓口一本化」のバックグラウンドではRPAがフル稼働している。

**答** デジタル技術を活用した窓口手続の簡素化は、非常に重要な課題だと認識している。

令和4年度から、住民票の写し、住民票記載事項証明書及び印鑑登録証明書について、マイナンバーカードや免許証を機械に読み込ませることで、自動的に申請手続が完了し、最後に署名するだけで受け取ることができるサービスを開始した。

今後は、「書かない窓口」と、一か所の窓口で多くの手続を完了できる「窓口の一本化」を併せて実施したいと考えている。

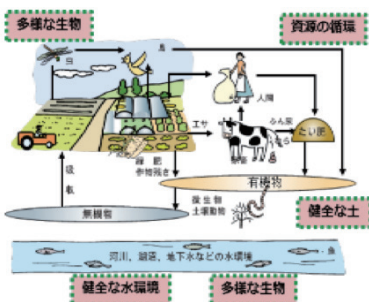
**問** 有機農業による持続可能な地域づくりは。

**答** 有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行う農業である。

本町では1法人が有機農業で米や野菜の大規模栽培に取り組んでいる。

面積は31haで、町内の農地面積の約3.6%に相当し、全国の農地面積に占める有機農業面積は0.6%であり、それを上回っている。

人や自然にやさしい農業であり、今後、消費者の健康志向が高まり、有機農業による農産物のニーズも増加することが予想され、取組を検討していく必要があると考えている。



出典：農林水産省 Web サイト (www.maff.go.jp)